

# 福岡県おくすり適正使用促進事業

## 成果報告

福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会

参加薬局  
**104薬局**  
会員薬局ベース

対象患者  
**206名**  
65歳以上・6剤以上

減薬希望  
**45名**  
23.1%

実際の減薬  
**14例**  
平均1.5剤減

## 背景

- 高齢患者では多剤服用が増え、服薬負担・副作用・相互作用・アドヒアランス低下が課題となる。
- 患者自身が「薬が多いことの意味」を理解し、相談行動につながる支援が必要である。

## 目的

- 見える化シートと患者説明用資材を活用し、患者のポリファーマシー認知を高める。
- 減薬の検討希望や処方見直しにつながるかを確認する。

主要評価

**認知向上**

1回目 → 2回目

副次評価

**減薬希望・実施**

事例収集を含む

# 方法・対象

## 対象

65歳以上  
定期内服薬6剤以上  
再来局予定患者

## 介入

見える化シート作成  
患者説明用資材で説明  
2回目ヒアリング

## 評価項目

認知の変化  
減薬検討希望の有無  
実際の減薬・服薬改善

実施患者

**206名**

女性116名・男性90名

有効回答

**195件**

2回目ヒアリング

平均服用薬剤数

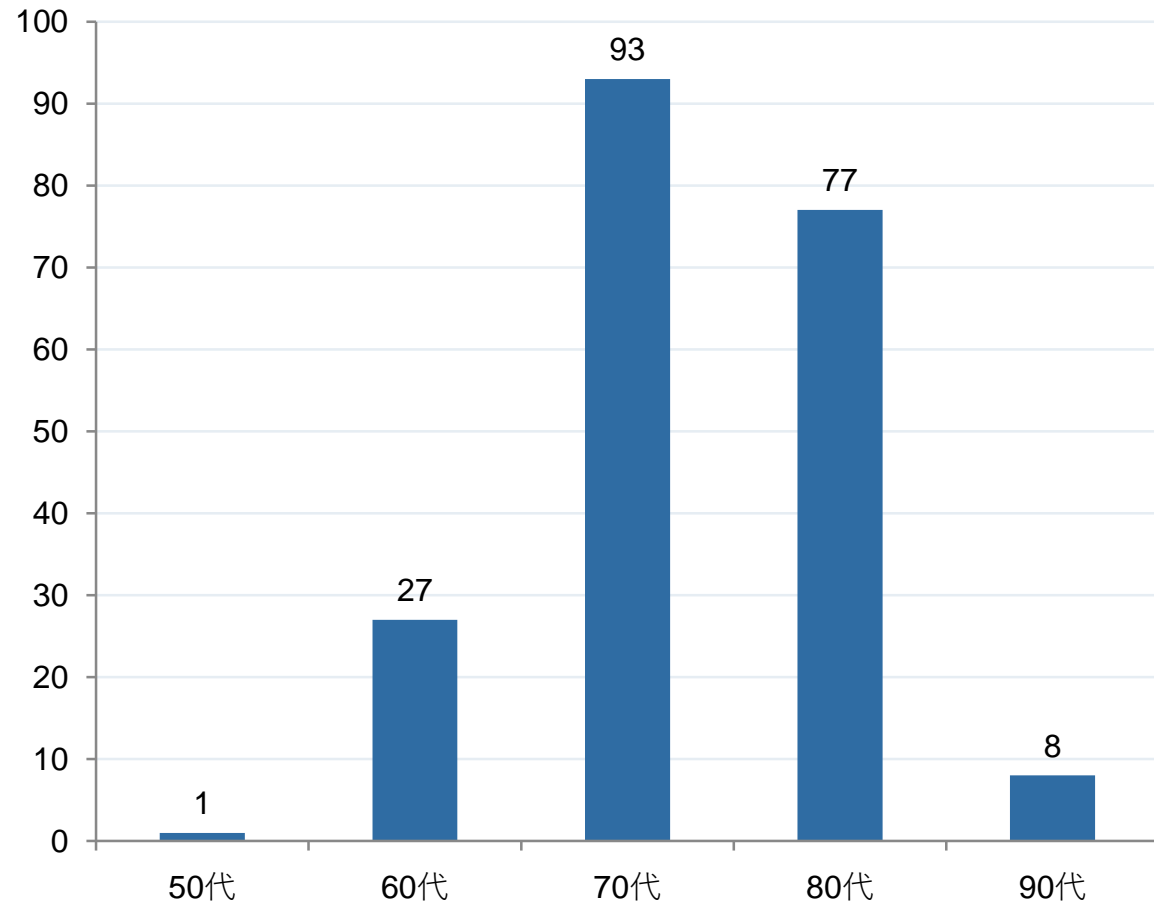
**9.2剤**

3~27剤

## 年齢構成

70代 93名  
80代 77名  
60代 27名  
90代 8名  
50代 1名

# 患者背景



最多年齢層

**70代 93名**

45%

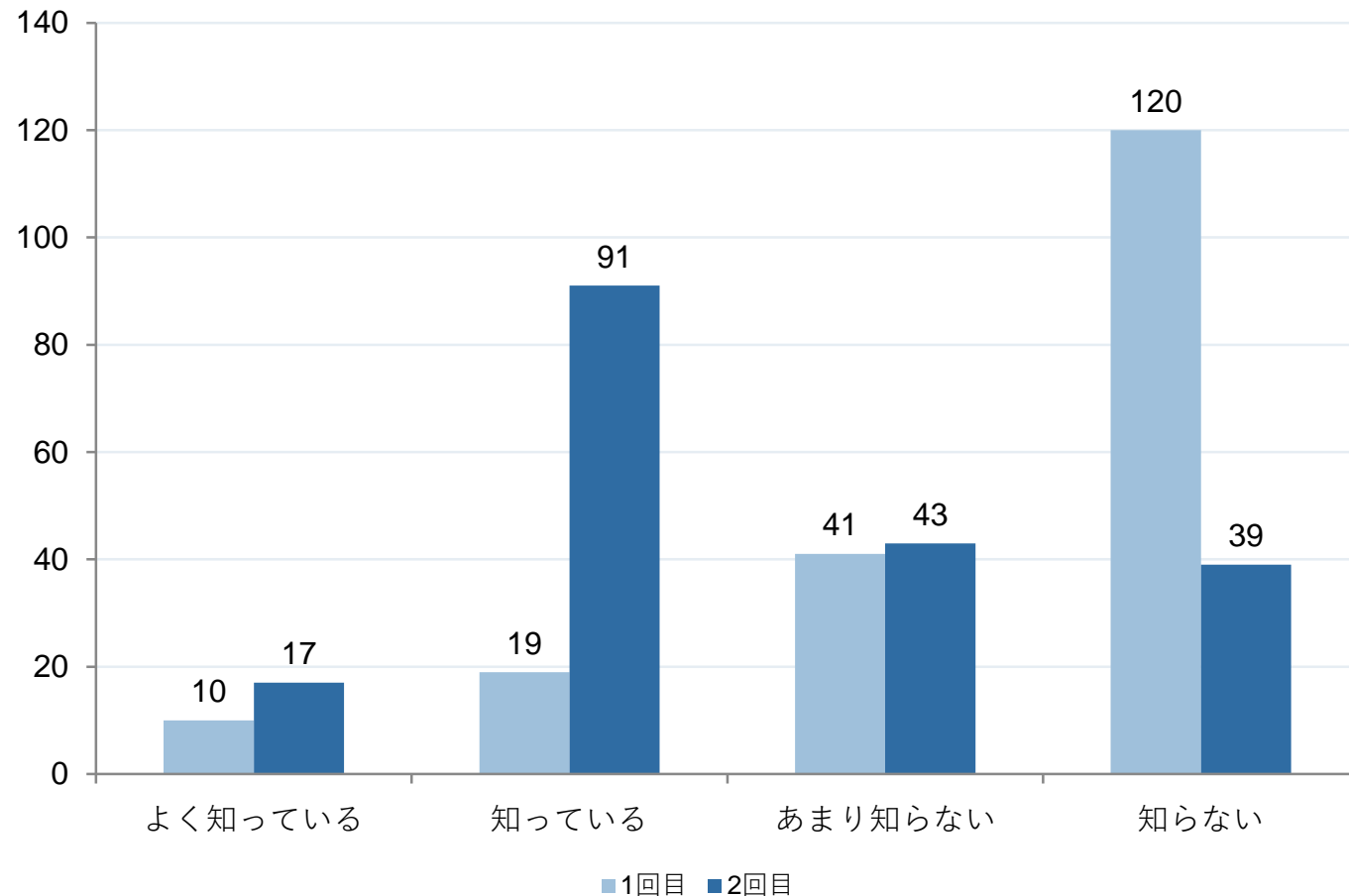
次に多い層

**80代 77名**

37%

対象患者206名の年齢分布。  
70～80代が全体の82%を占め、多剤服用状態の高齢患者が主な対象であった。

# アンケート結果① ポリファーマシー認知の変化



1回目の認知率

**15.3%**

29 / 190名

2回目の認知率

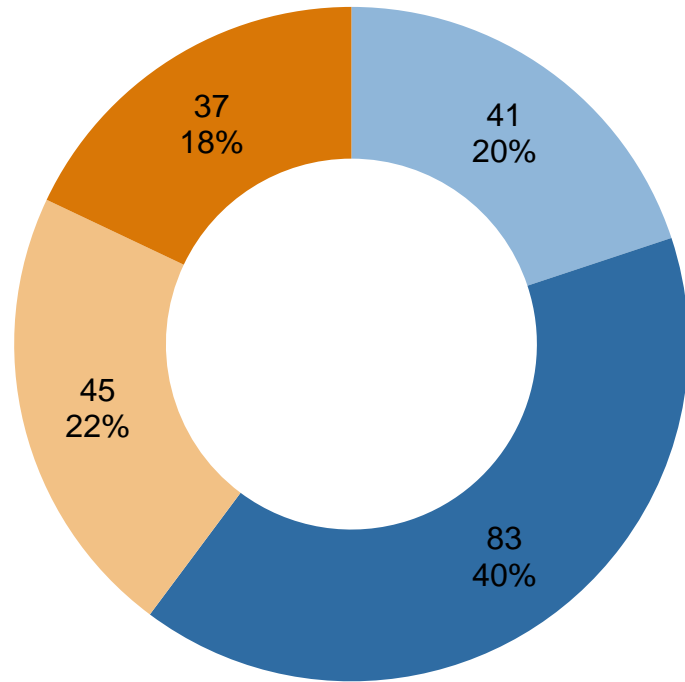
**56.8%**

108 / 190名

再来局した患者190名について、初回と2回目で「ポリファーマシーを知っているか」の回答分布を比較した。

→ 「知っている」以上が29名から108名に増加した。

## アンケート結果② 減薬を相談できることの認知



■よく知っている 41名 ■知っている 83名  
■あまり知らない 45名 ■知らない 37名

知っている以上

**60.2%**

124 / 206名

認知不足

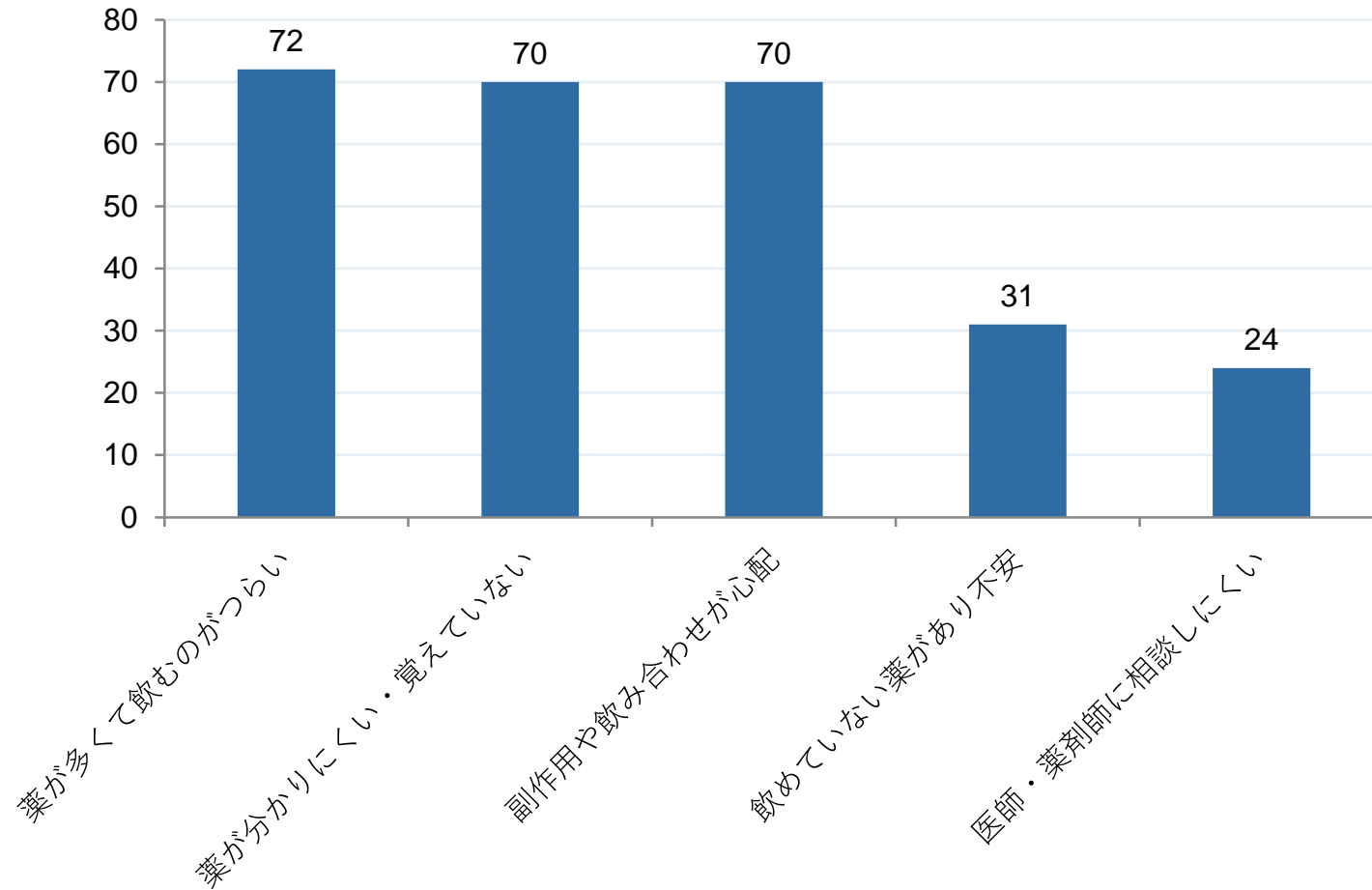
**39.8%**

82 / 206名

「薬の種類を減らすことについて医師・薬剤師に相談できると知っているか」に対する回答分布。

→ 約4割の患者は、減薬相談という選択肢を十分認識していない。

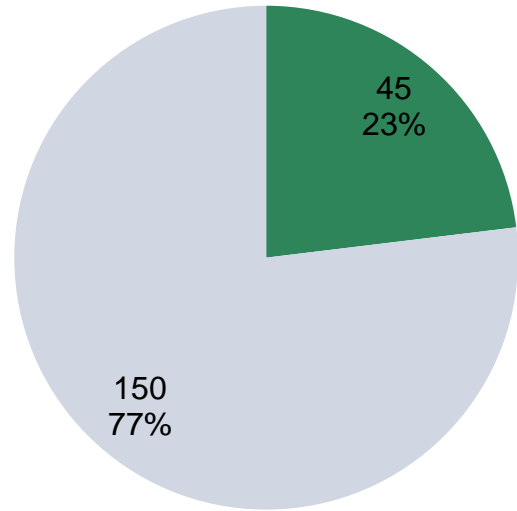
# アンケート結果③ 服薬上の困りごと



72名 (34.9%) : 薬が多くて飲むのがつらい  
70名 (34.0%) : 薬が分かりにくい・覚えていない  
70名 (34.0%) : 副作用や飲み合わせが心配  
31名 (15.0%) : 飲めていない薬があり不安  
24名 (11.7%) : 医師・薬剤師に相談しにくい

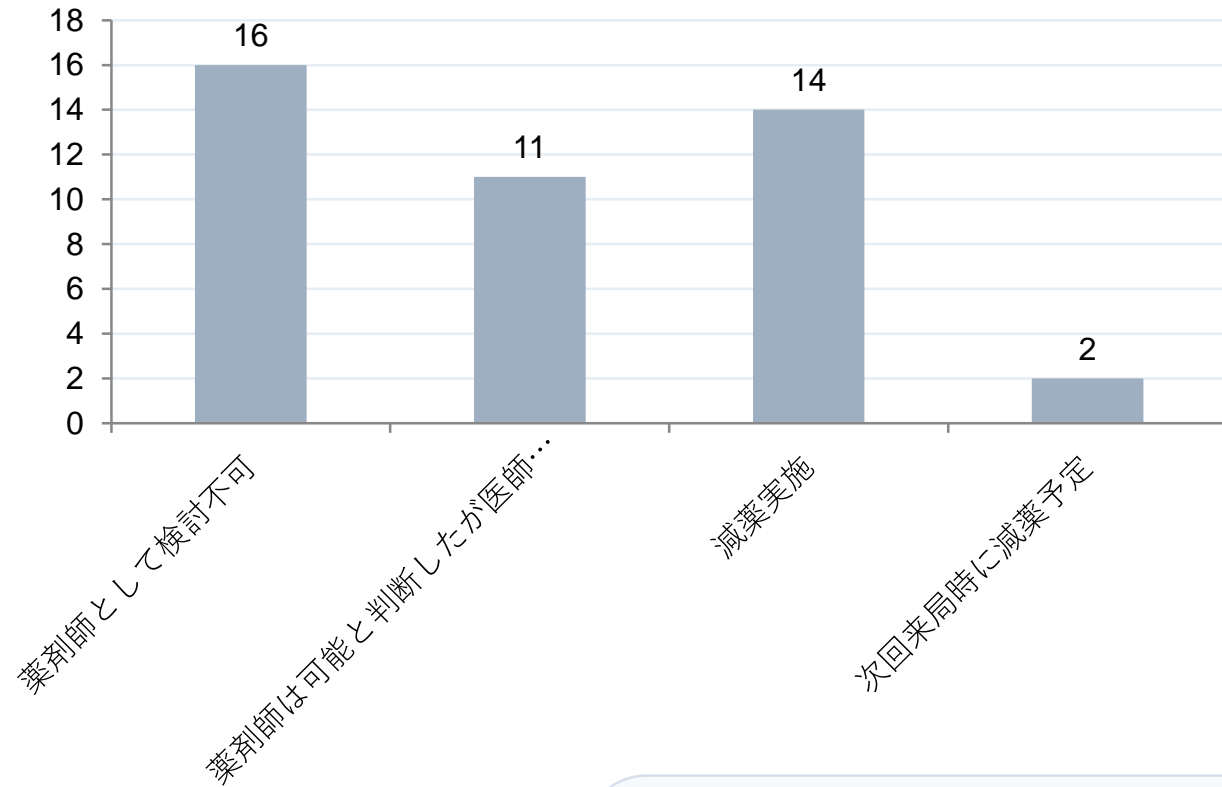
相談のしにくさよりも、薬剤数・薬効理解  
・副作用への不安が前面に出ている。

# 減薬検討結果



■ 減薬希望あり 45名 ■ 減薬希望なし 150名

2回目ヒアリング有効回答：195件



減薬希望あり：45件 (23.1%)  
減薬希望なし：150件 (76.9%)

薬剤師として検討不可：16件  
医師が不可と判断：11件  
減薬実施：14件

次回来局時に減薬予定：2件  
実施した減薬数：平均1.5剤 (0~5剤)

# 減薬・服薬改善につながった主な事例と考察

## 事例1：同効薬・重複投与の整理

排尿障害改善薬の重複を整理し、1剤中止。  
→ 患者・薬剤師・医師が同じ情報を共有することで、重複投与の是正が進んだ。

## 事例2：漫然投与薬の再評価

整腸剤、消化管運動改善薬、睡眠薬、頓用鎮痛薬などについて、症状消失や処方理由の再確認を通じて中止・減量。

## 事例3：服用方法の最適化

1日4回服用で半数程度しか服用できていなかった症例に対し、朝1回への変更、不要薬中止、粉碎対応を実施。

## 考察

認知向上は 15.3% → 56.8%

23.1% が減薬検討を希望し、14例で実際に減薬。

一方で27例は「検討不可」または「医師が不可」と判断され、高齢者の多剤併用が単純な薬剤数の問題ではないことが示唆された。

→ 見える化シートは減薬相談のきっかけとして有効であり、減薬件数だけでなく服薬改善も重要な成果である。

認知向上

**+41.5pt**

15.3% → 56.8%

実際の減薬

**14例**

平均1.5剤減

結論

**薬剤師介入が有効**

事業として継続価値